

事業番号	98	事業の名称	社会教育事業・生涯学習推進事業	担当部署	部	課
					教育文化部	生涯学習課

事業の目的・概要	(目的) 興味のある講座を開催することにより、市民が活動を始めるきっかけになることを意図しています。 また、講座から自主的にサークルが立ち上がることを奨励しています。 (概要) 市教育委員会の主催で、旧街道探訪講座2講座、パソコン講座3講座、はじめての英会話1講座、俳句の作り方を学ぶ1講座、自分で装うはじめての浴衣1講座、茶道入門講座1講座及び市内史跡めぐり講座1講座を開催しました。	他市町の実施状況 (近隣市町や先進都市の状況等を具体的に記載)	各市町で独自に生涯学習講座を実施

事業期間	事業開始年度	-	終了(予定)年度	-	総事業費 (単位:千円)	総事業費	H23予算	H23決算	H24予算	H24決算	H25予算	評価の見方 A 現行どおり実施 B 事業の改善 C 他事業と統合 D 運営主体の見直し E 事業の廃止の検討	
事業の対象 (だれ、何に対して)	市内在住、在勤、在学の方					うち	一般財源	626	626	581	581		581
事業の意図 (対象をどのような状態にしたいか)	興味のある講座を開催することにより、市民が活動を始めるきっかけになることを意図しています。						国費・県費	626	626	581	581		581
							地方債						
							受益者負担額	594	498	436	465		459

事業を構成する 事務事業	対象 (だれ、何に に対して)	目的 (いつ、どのような手段を使って)				意図 (対象をどのような状態にしたいか)	事務事業の 実施結果	成果指標	成果			事業費(単位:千円)			評価		
		手段 (いつ、どのような手段を使って)							H23実績	H24実績	単位	成果指標の目標値 設定の根拠	H23予算	H23決算	H24決算の主な内訳 (単位:千円)	評価 成果 事業費	評価の説明
		4月~	7月~	10月~	1月~								H24目標値	H24予算			
① 旧街道探訪講座	市内在住、 在勤、在学 の方	●		●		生涯学習への関心を 高め、学習意欲を持 つきっかけとしてもら う	申込者58人	講座申込者数÷ 募集定員の割合 (講座申込者数 /募集定員)	100	97	%	募集定員の充足	144	144	講師料72千円×2回	A	文化財保護審議会の委員である小林元氏が講座を受け持ち、募集人数もほぼ確保していることから、現行どおり実施する。
② パソコン講座	市内在住、 在勤、在学 の方	→	→	→		生涯学習への関心を 高め、学習意欲を持 つきっかけとしてもら う	申込者39人	講座申込者数÷ 募集定員の割合 (講座申込者数 /募集定員)	100	87	%	募集定員の充足	240	240	はじめてのパソコン講座 講師料15,000円×5回 はじめてのワード講座 講師料15,000円×5回 はじめてのエクセル講 座講師料15,000円×5 回	B	人気講座で住民からの要望も多く、募集人員もほぼ確保しているため、講座内容を一部見直しをし、実施する。
③ はじめての英会話	市内在住、 在勤、在学 の方	●				生涯学習への関心を 高め、学習意欲を持 つきっかけとしてもら う	申込者8人	講座申込者数÷ 募集定員の割合 (講座申込者数 /募集定員)	100	53	%	募集定員の充足	75	75	講師料15千円×5回	B	平成23年度は募集人数を確保していたが、平成24年度の募集人数が減っているため、日程や内容等を再検討し、募集人数確保を努めたい。
④ 俳句の作り方を学ぶ	市内在住、 在勤、在学 の方	●				生涯学習への関心を 高め、学習意欲を持 つきっかけとしてもら う	申込者8人	募集人数の確保 講座申込者数÷ 募集定員の割合 (講座申込者数 /募集定員)	69	33	%	募集定員の充足	60	60	講師料15千円×4回	B	平成23年度と比較して大幅に募集人数を減らしたので、日程や内容等を再検討し、募集人数確保を努めたい。

事務事業の改善内容	事務事業	改善内容	事務事業	事業概要
	② パソコン講座	住民からの要望が高い講座である。来年度は、受講生が利用しやすい日程等を講師と調整する。		
③ はじめての英会話	来年度は、受講生が利用しやすい日程等を講師と調整し、募集状況によって見直しを検討する。			
④ 俳句の作り方を学ぶ	来年度は、受講生が利用しやすい日程等を講師と調整し、募集状況によって見直しを検討する。			

事業番号	98	事業の名称	社会教育事業・生涯学習推進事業	担当部署	部	課
					教育文化部	生涯学習課

事業の目的・概要	(目的) 興味のある講座を開催することにより、市民が活動を始めるきっかけになることを意図しています。 また、講座から自主的にサークルが立ち上がることを奨励しています。 (概要) 市教育委員会の主催で、旧街道探訪講座2講座、パソコン講座3講座、はじめての英会話1講座、俳句の作り方を学ぶ1講座、自分で装うはじめての浴衣1講座、茶道入門講座1講座及び市内史跡めぐり講座1講座を開催しました。			他市町の実施状況 (近隣市町や先進都市の状況等を具体的に記載)	各市町で独自に生涯学習講座を実施																			
	事業期間	事業開始年度	終了(予定)年度		総事業費 (単位:千円)	H23予算	H23決算	H24予算	H24決算	H25予算														
事業の対象 (だれ、何に対して)	市内在住、在勤、在学の方			総事業費	うち	一般財源	626	626	581	581	581	<table border="1"> <tr><th colspan="2">評価の見方</th></tr> <tr><td>A</td><td>現行どおり実施</td></tr> <tr><td>B</td><td>事業の改善</td></tr> <tr><td>C</td><td>他事業と統合</td></tr> <tr><td>D</td><td>運営主体の見直し</td></tr> <tr><td>E</td><td>事業の廃止の検討</td></tr> </table>	評価の見方		A	現行どおり実施	B	事業の改善	C	他事業と統合	D	運営主体の見直し	E	事業の廃止の検討
評価の見方																								
A	現行どおり実施																							
B	事業の改善																							
C	他事業と統合																							
D	運営主体の見直し																							
E	事業の廃止の検討																							
事業の意図 (対象をどのような状態にしたいか)	興味のある講座を開催することにより、市民が活動を始めるきっかけになることを意図しています。			国費・県費																				
				地方債																				
				受益者負担額	594	498	436	476	436															

事業を構成する 事務事業	対象 (だれ、何に 対して)	目的 (いつ、どのような手段を使って)				意図 (対象をどのような状態にしたいか)	事務事業の 実施結果	成果指標	成果			事業費(単位:千円)			評価		
		手段 (いつ、どのような手段を使って)							H23実績	H24実績	単位	成果指標の目標値 設定の根拠	H23予算	H23決算	H24決算の主な内訳 (単位:千円)	評価 成果 事業費	評価の説明
		4月~	7月~	10月~	1月~								H24目標値	H24予算			
⑤	自分で装うはじめての浴衣	市内在住、在勤、在学の方	2回講座で15人募集すること		生涯学習への関心を高め、学習意欲を持つきっかけとしてもらう	申込者5人	講座申込者数÷募集定員の割合 (講座申込者数/募集定員)	67	33	%	募集定員の充足	32	32	講師料8千円×2回×2人	B	平成23年度と比較して大幅に募集人数を減らしたので、日程や内容等を再検討し、募集人数確保を努めたい。	
⑥	茶道入門講座	市内在住、在勤、在学の方	4回講座で15人募集すること		生涯学習への関心を高め、学習意欲を持つきっかけとしてもらう	申込者9人	講座申込者数÷募集定員の割合 (講座申込者数/募集定員)	60	60	%	募集定員の充足	60	60	講師料15千円×4回	B	募集人数を確保できていないので、日程や内容等を再検討し、募集人数確保を努めたい。	
⑦	市内史跡めぐり講座	市内在住、在勤、在学の方	2回講座で20人募集すること		生涯学習への関心を高め、学習意欲を持つきっかけとしてもらう(くらい?)。	申込者17人	講座申込者数÷募集定員の割合 (講座申込者数/募集定員)	50	85	%	募集定員の充足	15	15	講師料15,000円	A	平成23年度と比較して大幅に募集人数を確保できたので、今後も募集人数確保を努めたい。	
⑧																	

事務事業の改善内容	事務事業	改善内容	H25以降新規に実施する事務事業	事務事業	事業概要
	⑤	自分で装うはじめての浴衣		来年度は、受講生が利用しやすい日程等を講師と調整し、募集状況によって見直しを検討する。	
⑥	茶道入門講座	住民からの要望が高い講座である。来年度は、受講生が利用しやすい日程等を講師と調整する。			